

4-4 小里頼永（よりなが）ガイド

1、小里頼永とは



小里頼永は明治35年（1902）7月から松本町長に、そして市制が施行された明治40年7月（1907）には、初代松本市長に選任され、昭和12年8月まで連続30年市長を務めた。

初代市長として市制の約3分の1を務めたことになる。また市制の黎明期にあつて、その礎を築いた人物ともいえる。この30年間には数々の問題に当り功績を積み上げてきたが、反面昭和4年（1929）の市会での再選問題では不支持派と支持派に分かれ、小里市長も「やめろと言えばやめし、満場一致推薦を受ければやってもよい」との態度表明であつた。市会では対立が深まり、調停不成立となり、小里と高野忠衛（後の長野市長）の決戦投票では同点となり、市制の規定により年長者の小里頼永（75才）が再選となった。市制後半には順風満帆（まんぱん）とはいかなかった。

2、小里頼永の経歴・・・数々の経験が、国宝市長との異名、藩士出身

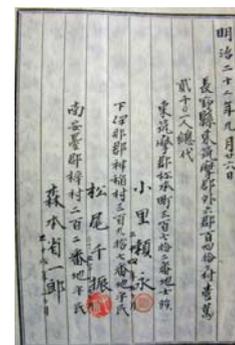
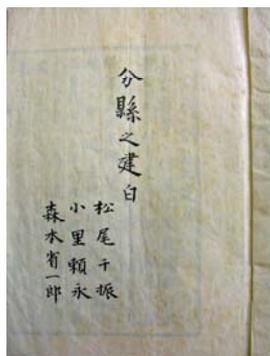
- ・慶応 元年 （1865）10歳 松本に帰り崇教館（そうきょうかん）に入学。
- ・明治 4年 （1871）廃藩置県後は開智学校の英学科に学ぶ。
- ・明治 8年 （1875）筑摩県師範学校で6ヶ月の講習を受けて付属小学校の教員になる。
- ・明治 9年 （1876）廃県後、かつての筑摩県師範学校長であつた金子尚政に招かれて、山梨県八代小学校の首席訓導となる。
- ・明治12年 （1879）25歳。代言（だいげん）人藤田正義の懇請があつて教員をやめる。「要（カナメ）新聞」の記者となり、自由民権運動に加わる。
- ・明治17年 （1884）東筑摩郡会議員となる。 ※代言人・・・代理人
市長擁護留任文
- ・明治21年 （1888）長野県会議員となる。
- ・明治23年 （1890）衆議院議員となる。
- ・明治31年 （1898）北海道支庁長（在任3ヶ月）となる。
- ・明治35年 （1902）7月松本町長になる。
- ・明治40年 （1907）7月より市制施行となり、初代松本市長になる。
- ・昭和12年 （1937）8月まで連続30年間市長を務める。辞任する。
- ・昭和16年 （1941）7月3日没 享年87歳



3、写真で見る小里頼永の在職中の主な活動

小里頼永の政治生活は明治初年の分県問題・移行論で始まり、県会議員や町長・市長の活動の中で、県庁移行論が生きていて、中南信7郡の市町村長と出身県会議員らと移行期成同盟会が結成され、その陣頭指揮を執った。これが彼の政治的バックボーンとなって市長時における活動の礎となっているといつても過言ではない。

(1) 分縣之建白



(2) 若き日の小里頼永



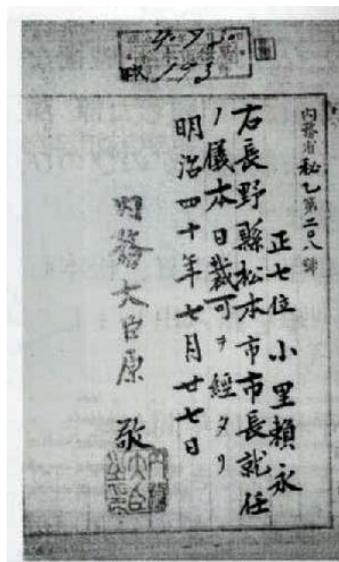
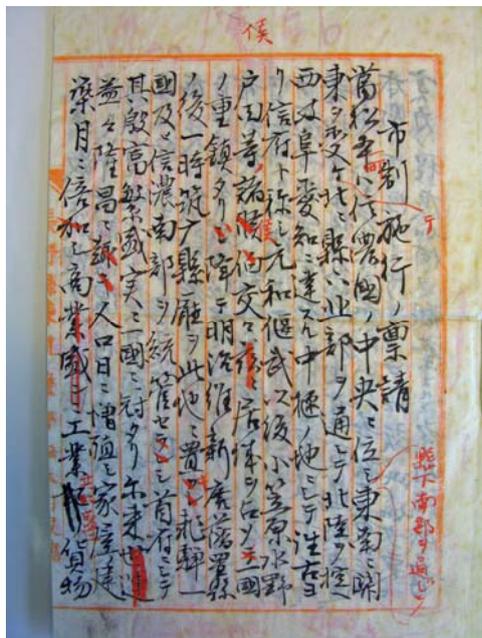
(3) 自宅にて



(4) 市制施行の稟請 (りんせい

い：申請の意) (5) 市長就任の許可

(8) 人との交流



福島安正



澤柳政太郎



辻 新次

(6) 市営病院の開設 (田町裏に：現在の信大附属病院の前身)

(7) 市制30周年記念式典で挨拶する小里頼永



昭和2年開設の市立松本病院



(10) 功労者レリーフに息衝く



(9) 寿像除幕式 後ろの石壁が功労者レリーフに

